

厚木市男女共同参画市民意識調査
報告書

《概要版》

令和4年3月

厚 木 市

■調査の目的

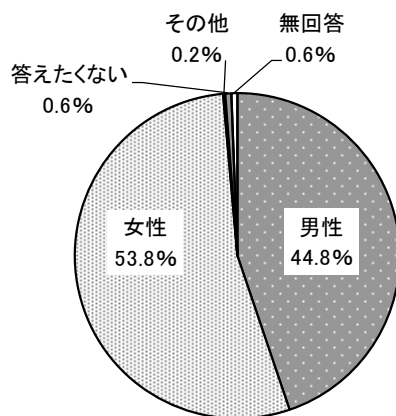
市民の男女共同参画に関する意識の変化や実態を的確に把握し、過去の調査と比較することによって各種施策の効果等を検証するとともに、厚木市男女共同参画計画改定の基礎データとし、今後の施策展開に向けた課題を抽出することを目的とします。

■調査の方法

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 3,000 人
 - ・厚木市に在住する満 18 歳以上の男女 2,000 人（外国籍の方を含む）…市内在住者
 - ・厚木市に在勤する満 18 歳以上の男女 1,000 人（外国籍の方を含む）…市内在勤者
- (3) 抽出方法 無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間 令和 3 年 10 月 7 日～10 月 27 日
- (6) 回収率 37.2%（配布数：3,000 通 回収数：1,117 通）

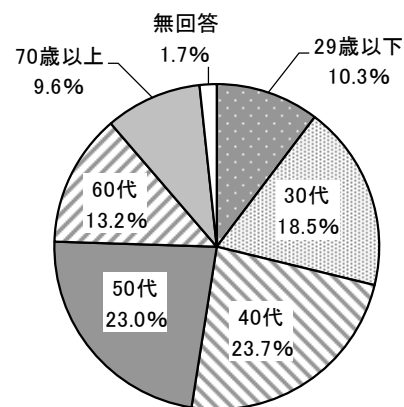
■回答者の属性

(1) 性別



(回答者数 = 1,117)

(2) 年代



(回答者数 = 1,117)

■調査項目

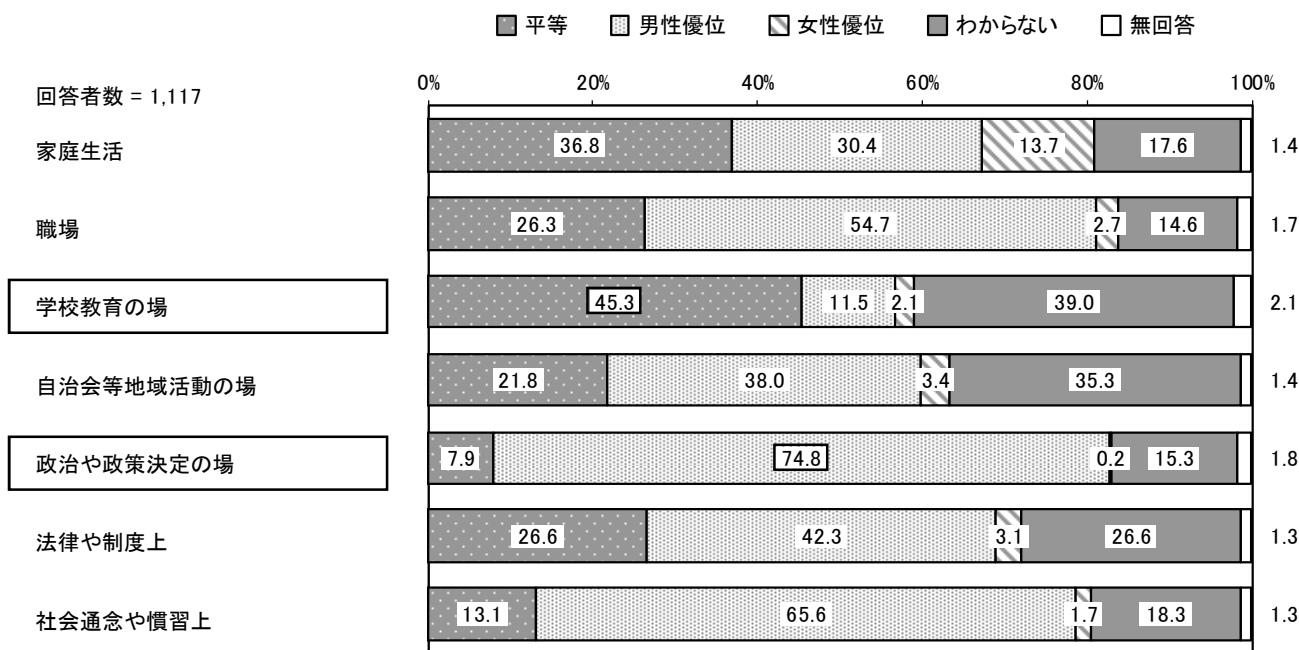
- 1 男女平等意識について
- 2 女性の活躍推進について
- 3 ワーク・ライフ・バランスと生活時間の配分について
- 4 家庭生活について
- 5 社会生活について
- 6 出産・育児について
- 7 ハラスメント・DVについて
- 8 性の多様性について
- 9 新型コロナウイルス感染拡大の影響について
- 10 男女共同参画社会に関する施策について

1 男女平等意識について

分野別男女の地位の平等感については、「平等」と答えた方が「学校教育の場」で4割半ばと最も高く、続いて「家庭生活」、「法律や制度上」の順で続きます。

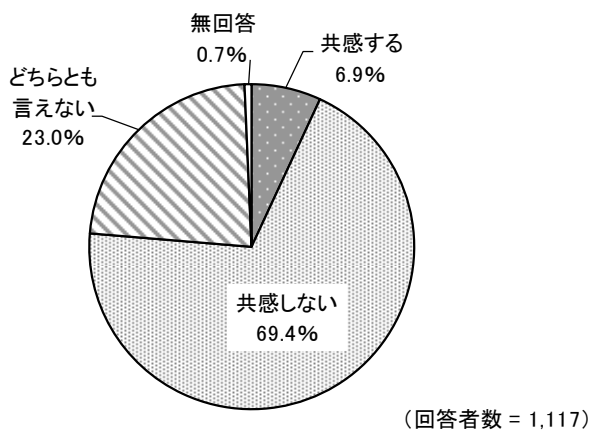
一方、「男性優位」と答えた方は「政治や政策決定の場」で7割半ばと最も高く、続いて「社会通念や慣習上」、「職場」の順で続きます。

1-1 分野別男女の地位の平等感



性別で役割を区別する考え方については、「共感しない」と答えた割合が約7割となっており、共感しない理由については、「男女の役割は固定せずに、どちらが仕事をしていても家庭にいても良い」や「男女共に仕事を持ち、家庭でも責任を分担するのが良い」が高い割合を占めています。

1-2 性別で役割を区別する考え方



[参考]

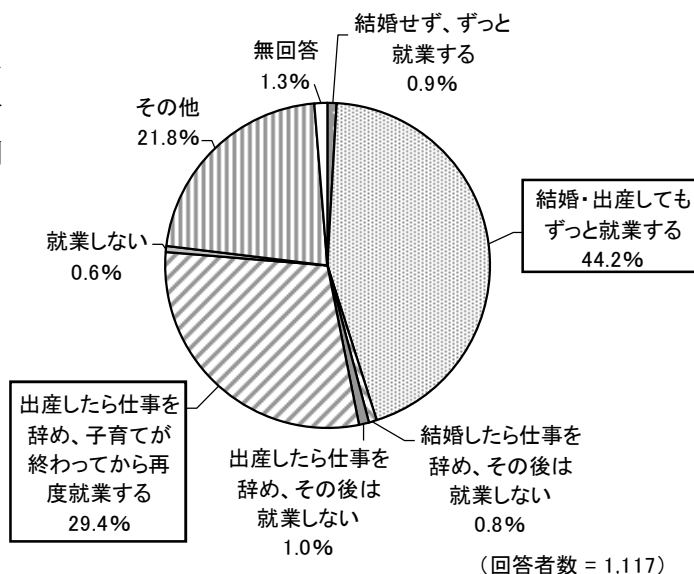
国の意識調査（令和元年9月）
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識

「賛成」「どちらかといえば賛成」 35.0%
「反対」「どちらかといえば反対」 59.8%
「わからない」 5.2%

2 女性の活躍推進について

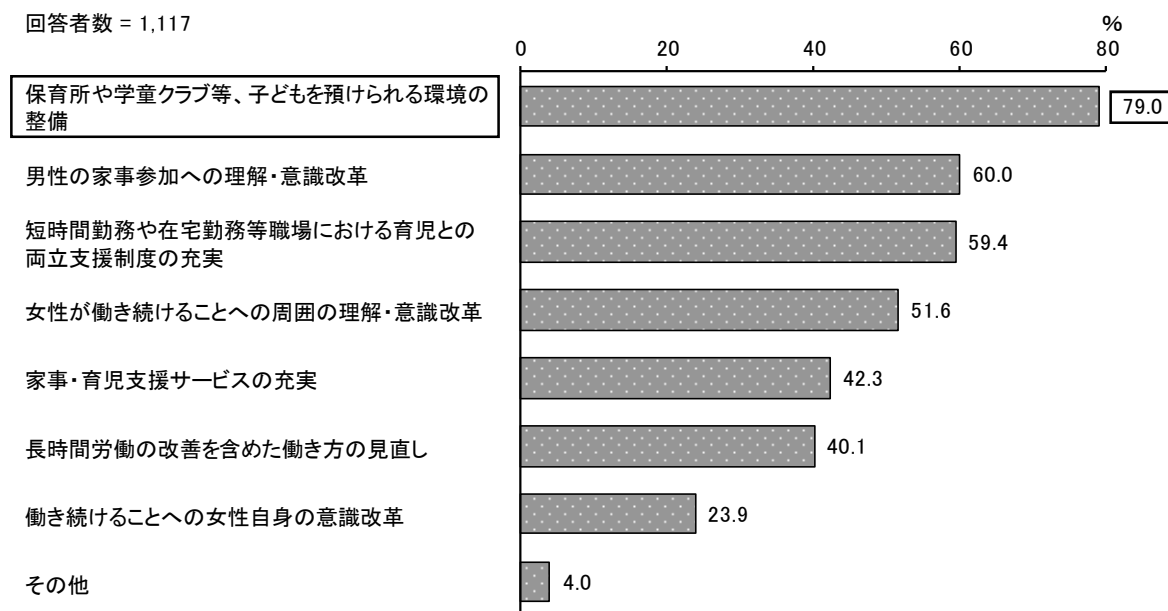
女性にとって望ましい働き方については、「結婚・出産してもずっと就業する」と答えた割合が4割半ば、「出産したら仕事を辞め、子育てが終わってから再度就業する」と答えた割合が約3割を占めています。

2-1 女性にとって望ましい働き方



また、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことについては、「保育所や学童クラブ等、子どもを預けられる環境の整備」が8割弱を占めており、子育てをしながら就業するための環境の整備が課題となっています。

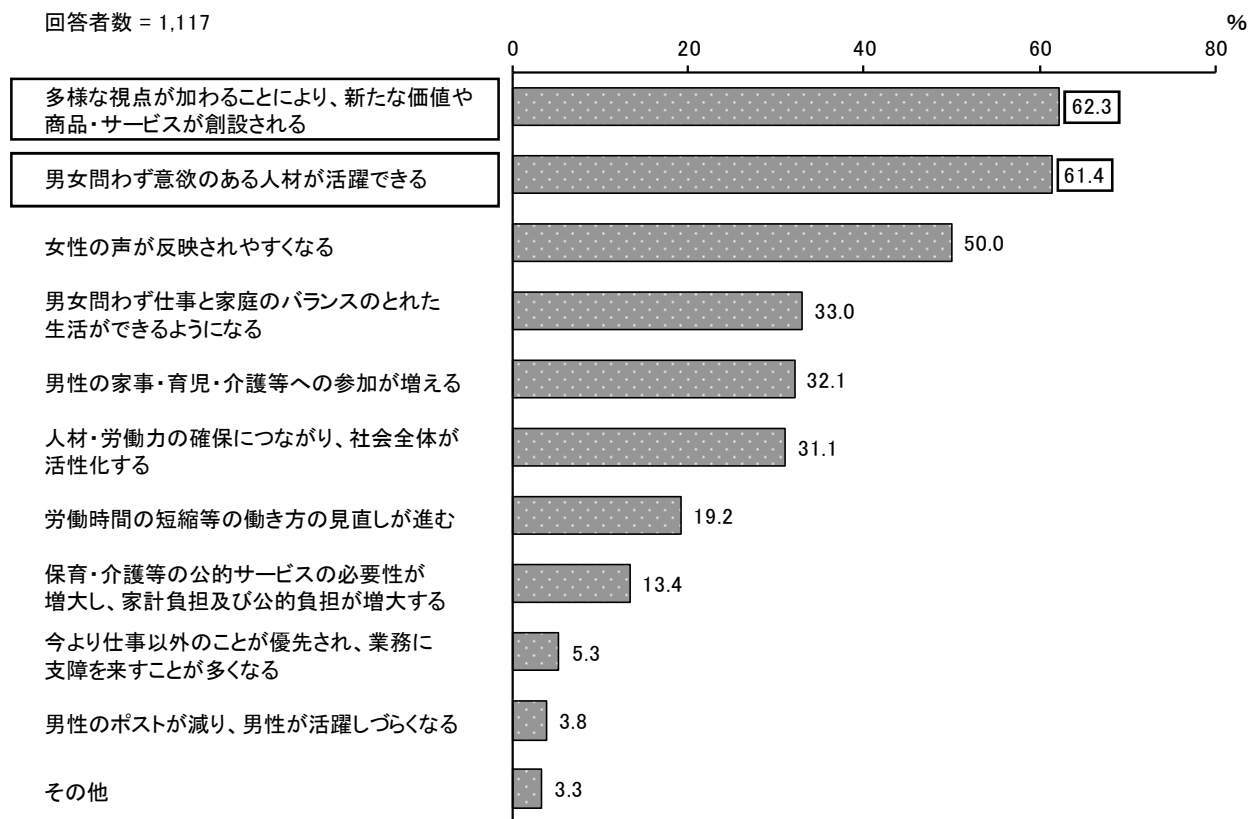
2-2 女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと



女性のリーダーが増えることで生じる変化については、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創設される」、「男女問わず意欲のある人材が活躍できる」の割合が6割を超え、「女性の声が反映されやすくなる」の割合が5割となっています。

2-3 政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーが増えることで生じる変化

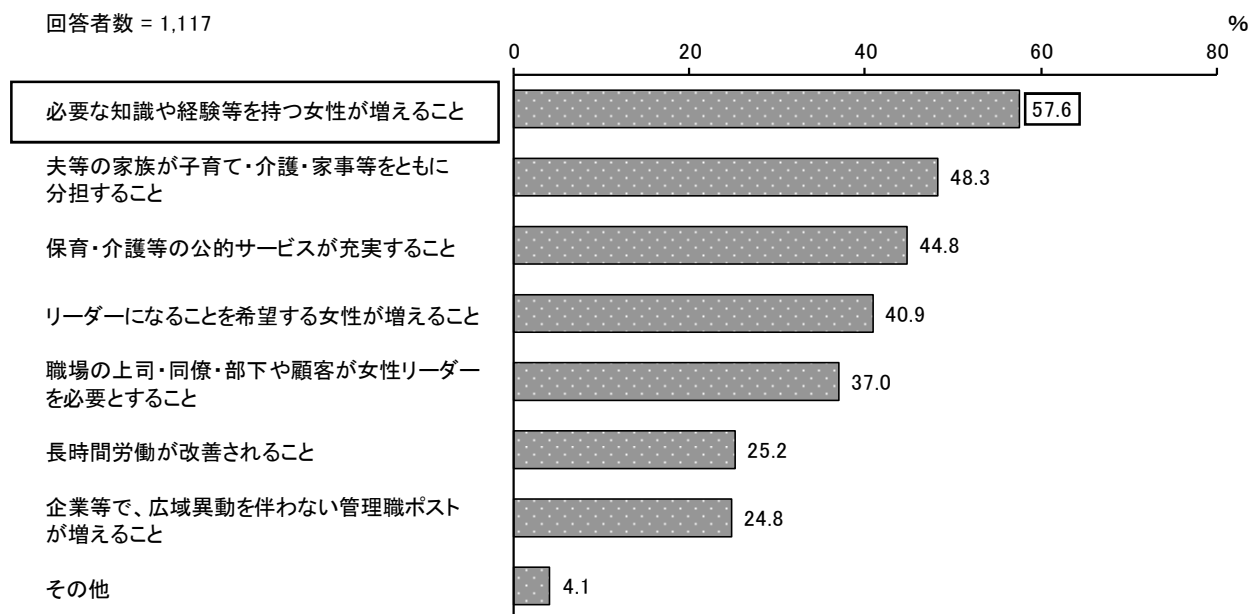
回答者数 = 1,117



女性のリーダーが増えるために必要なことについては、「必要な知識や経験等を持つ女性が増えること」の割合が約6割、「夫等の家族が子育て・介護・家事等をともに分担すること」、「保育・介護等の公的サービスが充実すること」、「リーダーになることを希望する女性が増えること」の割合が4割を超えています。

2-4 政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーが増えるために必要なこと

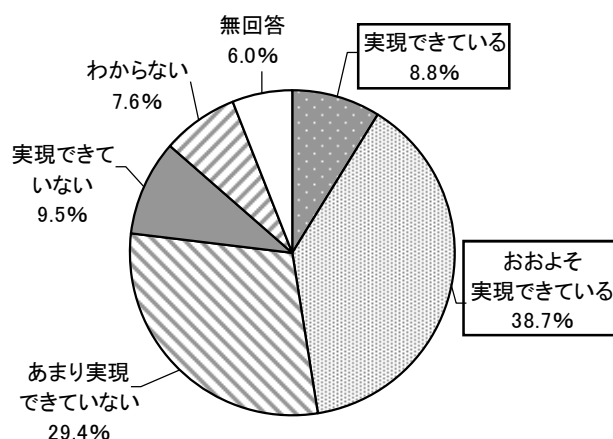
回答者数 = 1,117



3 ワーク・ライフ・バランスと生活時間の配分について

ワーク・ライフ・バランスの実現状況については、「実現できている」と「おおそ実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が47.5%となっています。一方、「あまり実現できていない」と「実現できていない」を合わせた“実現できていない”の割合が38.9%となっており、“実現できている”を下回っています。

3-1 ワーク・ライフ・バランスの実現状況

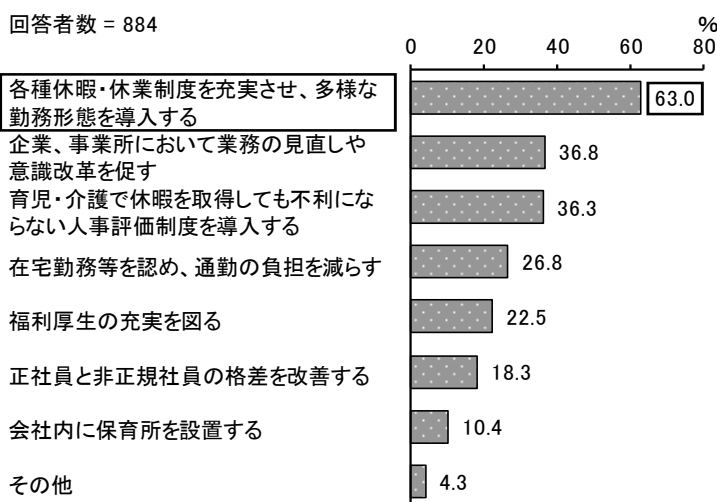


(回答者数 = 884)

(1) 企業による取組

企業による取組については、「各種休暇・休業制度を充実させ、多様な勤務形態を導入する」の割合が63.0%で最も高く、次いで「企業、事業所において業務の見直しや意識改革を促す」の割合が36.8%、「育児・介護で休暇を取得しても不利にならない人事評価制度を導入する」の割合が36.3%などとなっています。

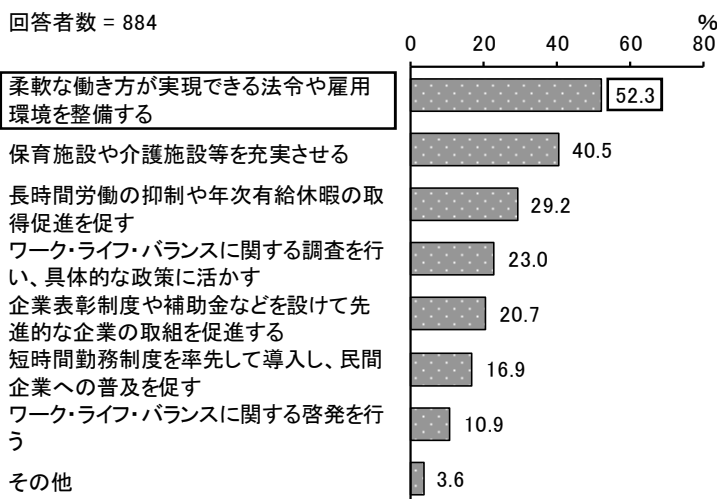
3-2 ワーク・ライフ・バランス実現に必要な取組（企業）



(2) 行政による取組

行政による取組については、「柔軟な働き方が実現できる法令や雇用環境を整備する」の割合が52.3%で最も高く、次いで「保育施設や介護施設等を充実させる」の割合が40.5%などとなっています。

3-3 ワーク・ライフ・バランス実現に必要な取組（行政）

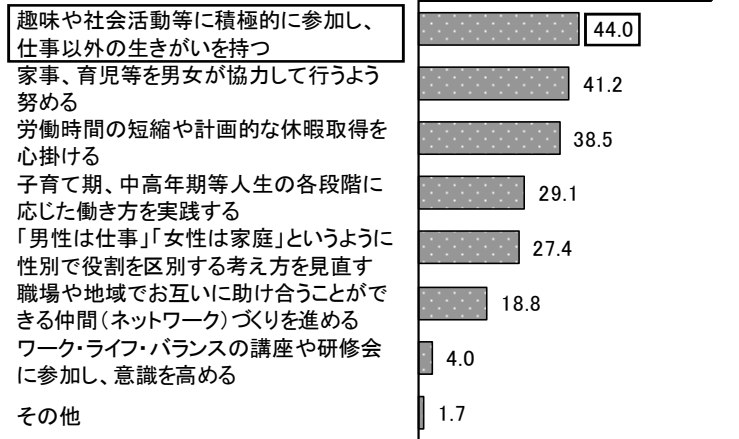


(3) 一人一人による取組

一人一人による取組については、「趣味や社会活動等に積極的に参加し、仕事以外の生きがいを持つ」の割合が44.0%で最も高く、次いで「家事、育児等を男女が協力して行うよう努める」の割合が41.2%、「労働時間の短縮や計画的な休暇取得を心掛ける」の割合が38.5%などとなっています。

3-4 ワーク・ライフ・バランス実現に必要な取組 (一人一人)

回答者数 = 884

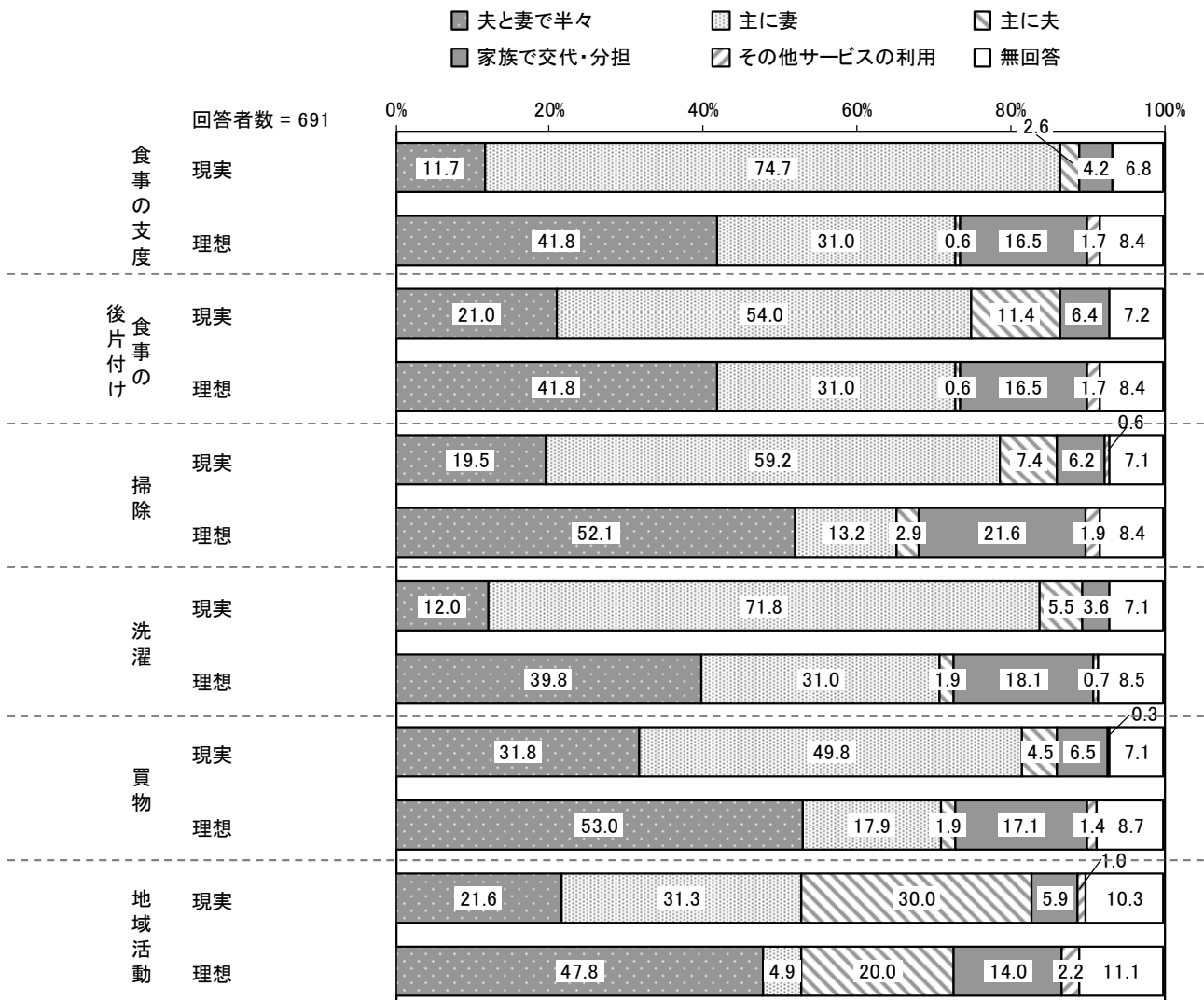


4 家庭生活について

日常的な家庭の仕事の分担（現実）については、地域活動を除くと全ての項目で「主に妻」の割合が高く、「食事の支度」、「洗濯」は7割を超えています。

また、全ての項目で「夫と妻で半々」の割合が、現実より理想の方が高い割合になっています。

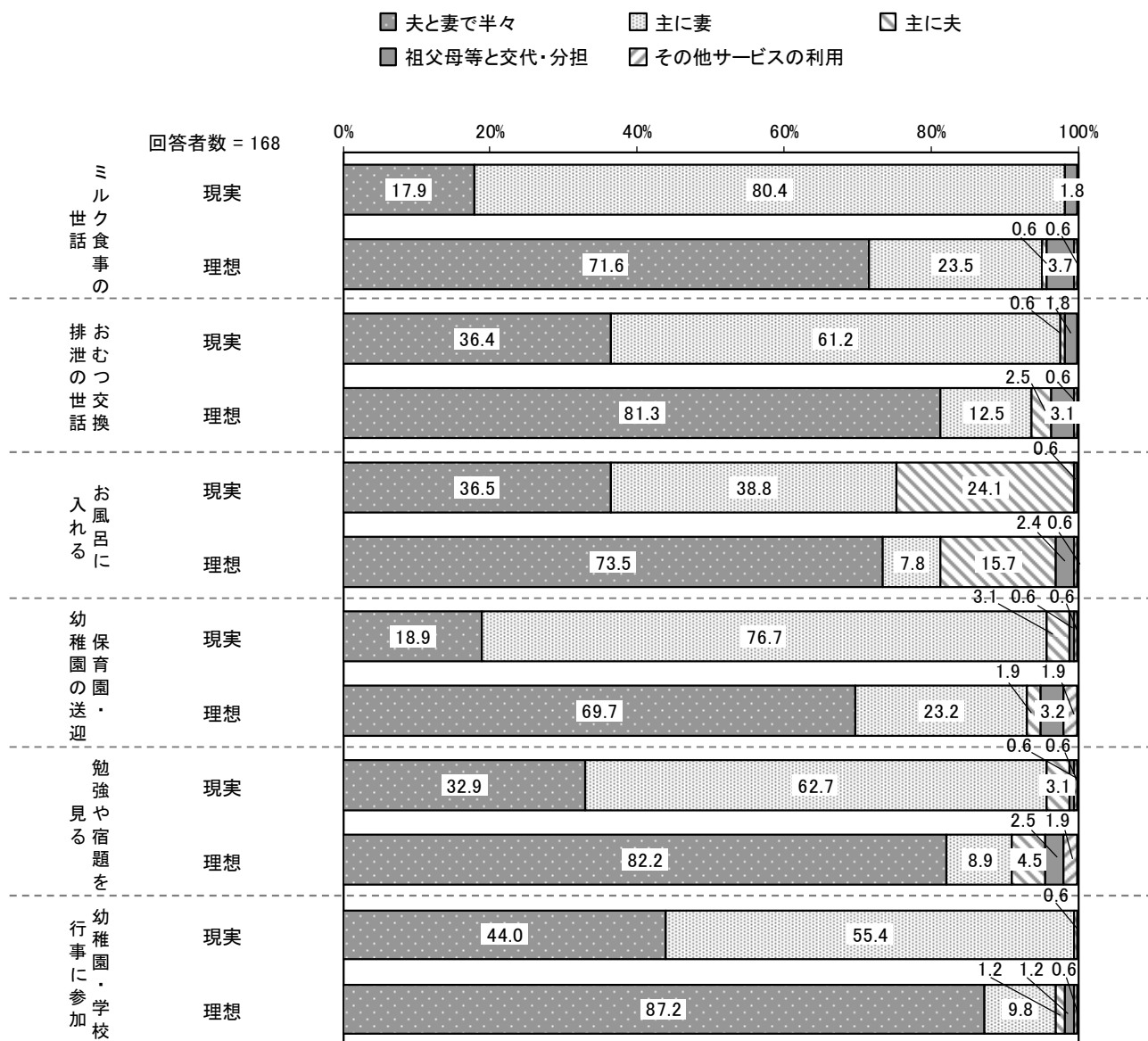
4-1 日常的な家庭の仕事の分担



日常的な子育ての分担（現実）については、全ての項目で「主に妻」が最も高くなっており、特に「ミルク・食事の世話」で8割を超えています。一方「主に夫」で最も高いのは「お風呂に入れる」で、2割半ばとなっています。

また、全ての項目で「夫と妻で半々」の割合が、現実より理想の方が高く、理想では6割以上となっています。

4-2 日常的な子育ての分担

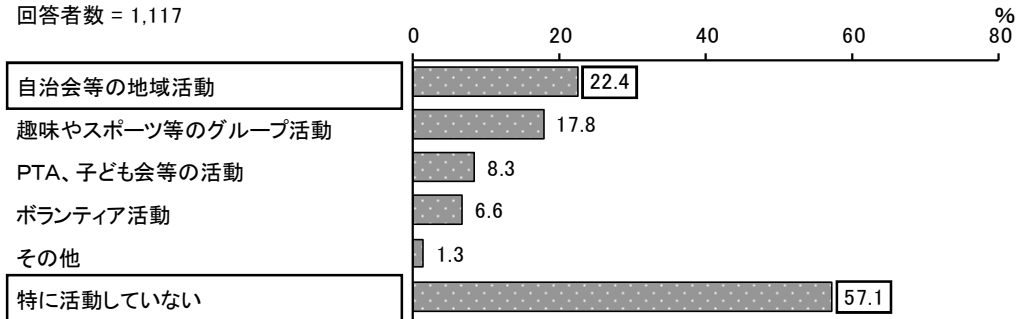


※無回答を除いて集計しています。

5 社会生活について

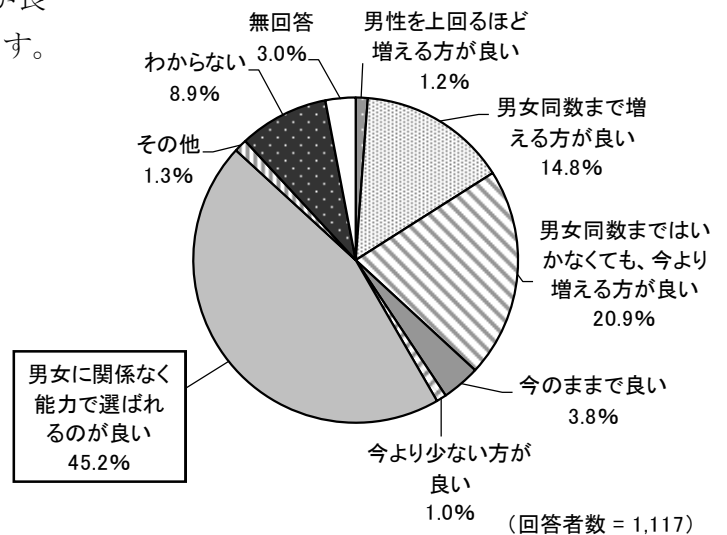
社会活動の参加状況については、「自治会等の地域活動」が2割を超えて高くなっていますが、「特に活動していない」が5割を超えており、半数以上が社会活動に参加していない状況です。

5-1 社会活動の参加状況



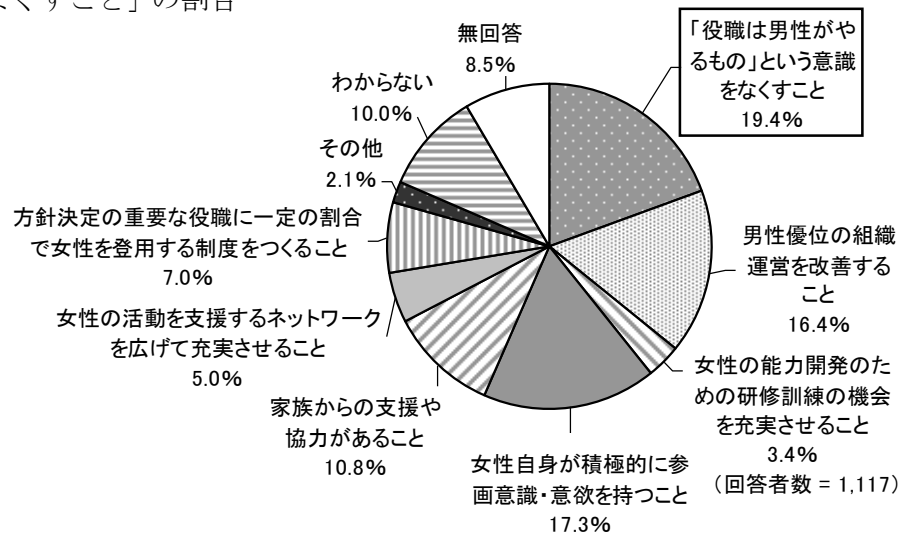
方針決定の場に女性が参画することについては、「男女に関係なく能力で選ばれるのが良い」と答えた割合が4割半ばとなっています。

5-2 方針決定の場に女性が参画すること



方針決定の場に女性が参画する機会を増やすために必要なことについては、「役職は男性がやるもの」という意識をなくすこと」の割合が19.4%となっています。

5-3 方針決定の場に女性が参画する機会を増やすために必要なこと

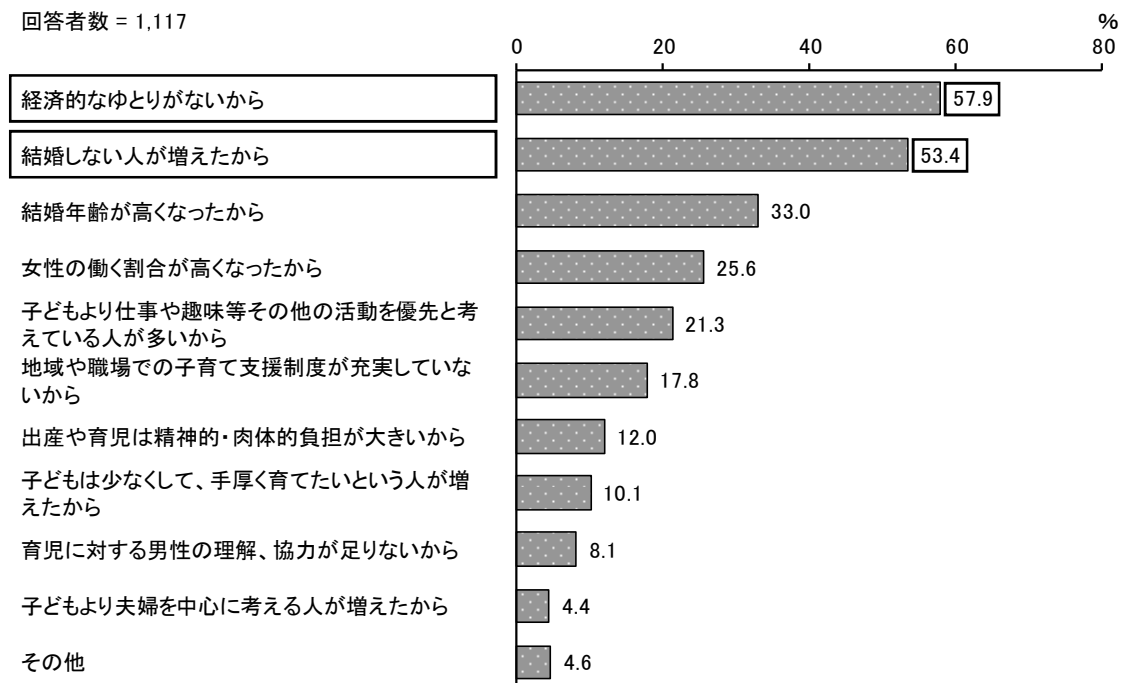


6 出産・育児について

少子化の理由については、「経済的なゆとりがないから」や「結婚しない人が増えたから」と答えた割合が半数を超えています。

6-1 少子化の理由

回答者数 = 1,117

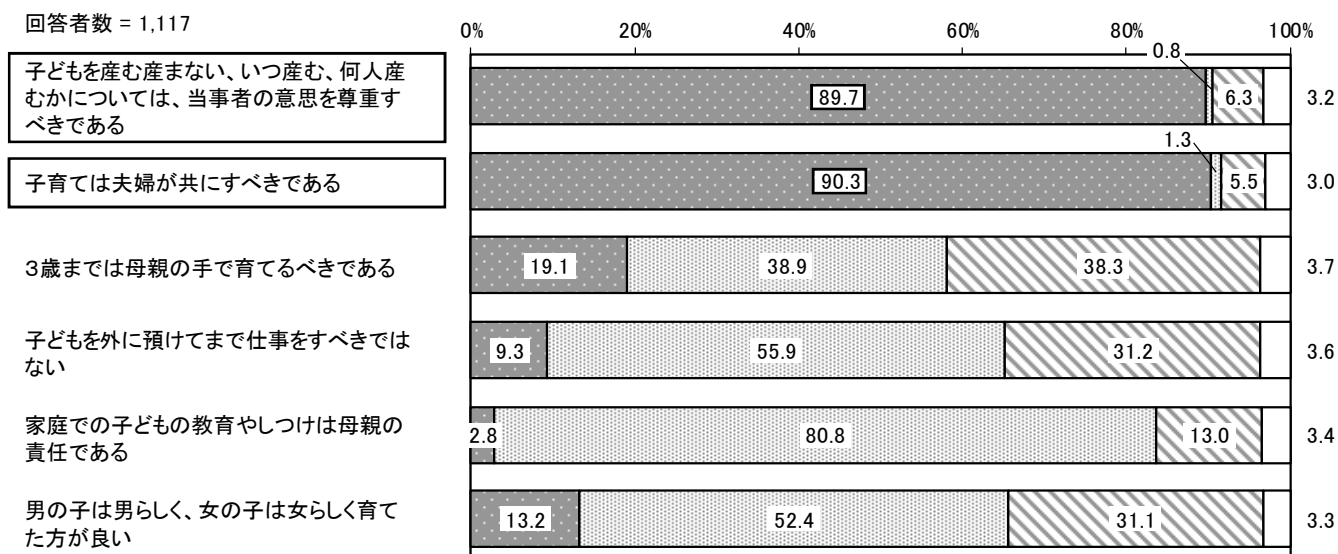


出産・育児に関する考え方については、『子どもを産む産まない、いつ産む、何人産むかにつ
いては、当事者の意思を尊重すべきである』、『子育ては夫婦が共にすべきである』で「そう思
う」の割合が8割を超えています。

6-2 出産・育児に関する考え方

■ そう思う □ そう思わない ▨ どちらとも言えない □ 無回答

回答者数 = 1,117

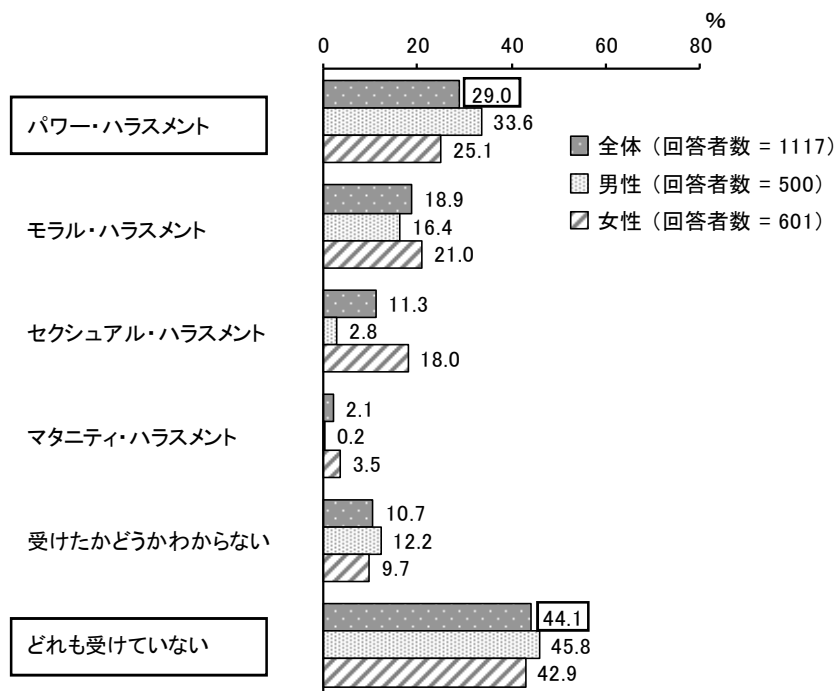


7 ハラスメント・DVについて

7-1 ハラスメントを受けた経験と種類

ハラスメントを受けた経験と種類については、「どれも受けていない」の割合が44.1%と最も高く、次いで「パワー・ハラスメント」、「モラル・ハラスメント」、「セクシュアル・ハラスメント」の順になっています。

性別では、女性で「セクシュアル・ハラスメント」、「モラル・ハラスメント」の割合が高くなっています。一方、男性で「パワー・ハラスメント」、「受けたかどうかわからない」、「どれも受けていない」の割合が高くなっています。

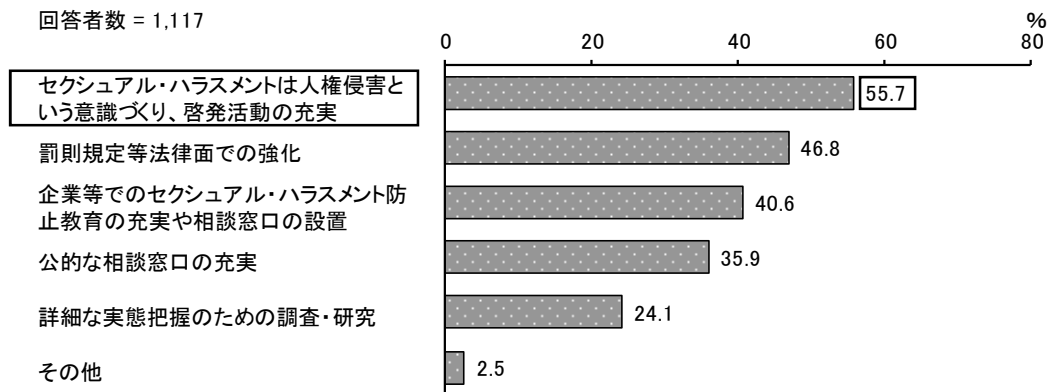


セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策については、「セクシュアル・ハラスメントは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実」の割合が55.7%と最も高くなっています。

パワー・ハラスメントをなくすための対策については、「パワー・ハラスメントは人権侵害という意識づくり、啓発活動の充実」の割合が56.8%と最も高くなっています。

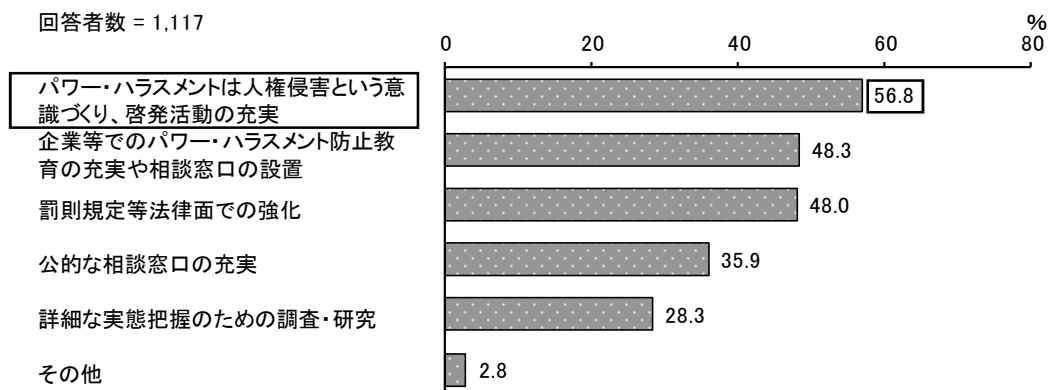
7-2 セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策

回答者数 = 1,117



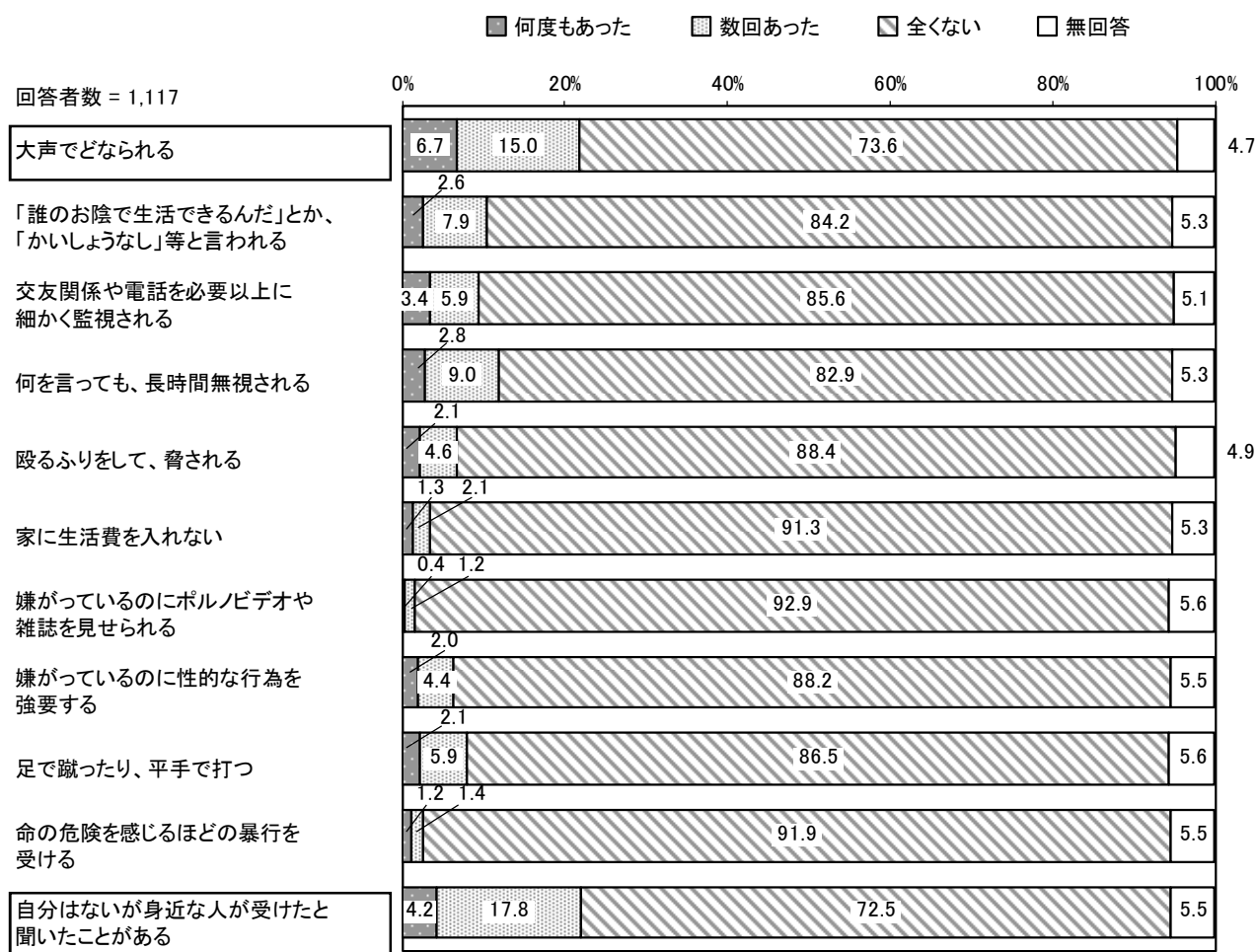
7-3 パワー・ハラスメントをなくすための対策

回答者数 = 1,117



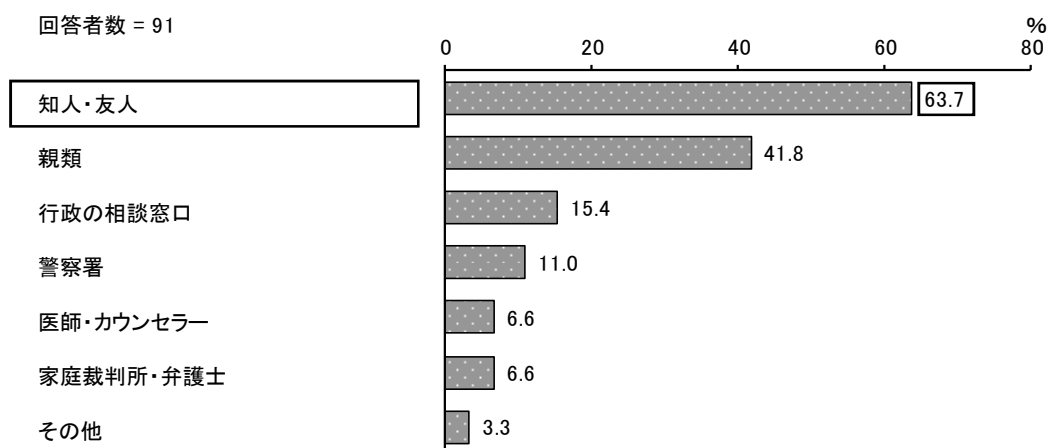
ドメスティック・バイオレンスの経験については、『大声でどなられる』、『自分はないが身近な人が受けたと聞いたことがある』で「何度もあった」と「数回あった」を合わせた“あった”の割合が高くなっています。

7-4 ドメスティック・バイオレンスの経験



ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談先については、「知人・友人」の割合が63.7%と最も高く、次いで「親類」の割合が41.8%、「行政の相談窓口」の割合が15.4%となっています。

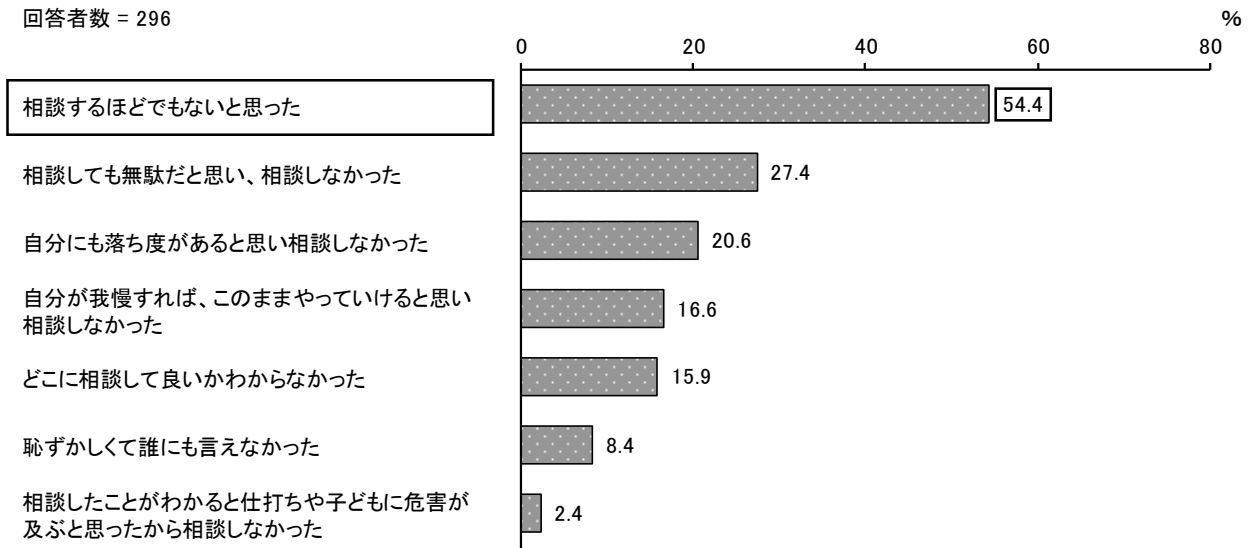
7-5 ドメスティック・バイオレンスを受けたときの相談先



ドメスティック・バイオレンスを相談していない理由については、「相談するほどでもないと思った」と答えた方が5割を超えています。

7-6 ドメスティック・バイオレンスを受けたときに相談していない理由

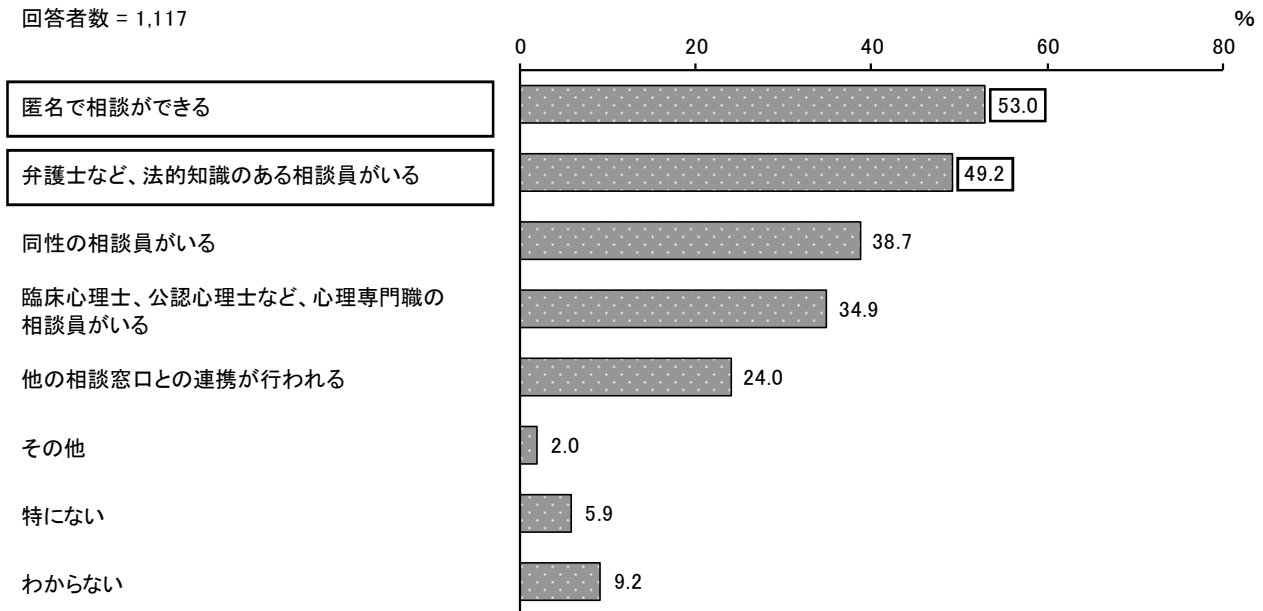
回答者数 = 296



相談窓口等で配慮してほしいことについては、「匿名で相談ができる」、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」と答えた方が約5割となっています。

7-7 相談窓口等で配慮してほしいこと

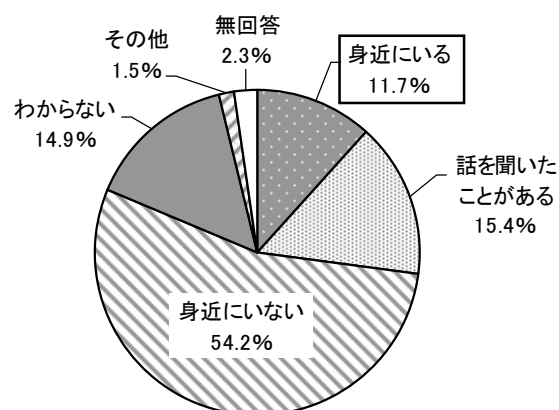
回答者数 = 1,117



8 性の多様性について

身近な人にLGBTの方がいるかについては、「身近にいる」と答えた方が1割を超えています。

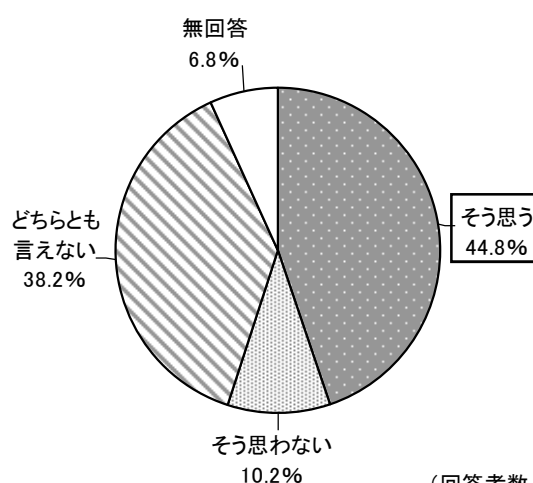
8-1 身近な人にLGBTの方がいるか



(回答者数 = 1,117)

LGBTの方にとって生活しづらい社会かについては、「そう思う」と答えた方が4割を超えています。

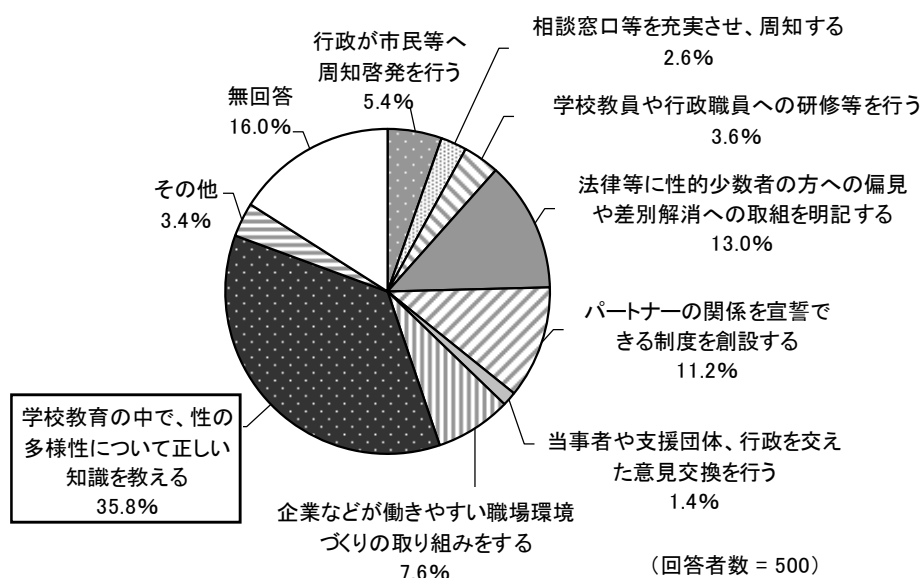
8-2 LGBTの方にとって生活しづらい社会か



(回答者数 = 1,117)

LGBTの方が生活しやすい社会にするために必要な対策については、「学校教育の中で、性の多様性について正しい知識を教える」の割合が35.8%と最も高く、次いで「法律等に性的少数者の方への偏見や差別解消への取組を明記する」の割合が13.0%、「パートナーの関係を宣誓できる制度を創設する」の割合が11.2%となっています。

8-3 LGBTの方が生活しやすい社会にするために必要な対策



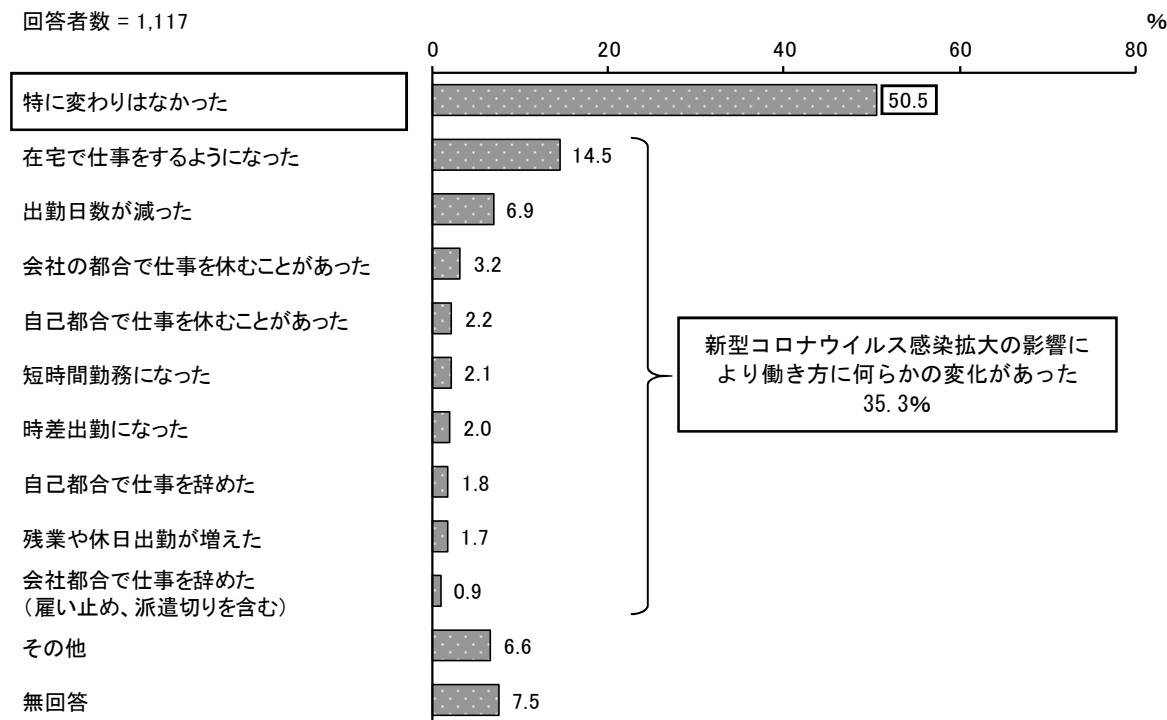
(回答者数 = 500)

9 新型コロナウイルス感染拡大の影響について

新型コロナウイルス感染拡大の影響による働き方の変化については、「特に変わりはなかった」と答えた方が約5割となっています。一方で、働き方に何らかの変化があったと答えた方は3割を超えています。

9-1 新型コロナウイルス感染拡大の影響による働き方の変化

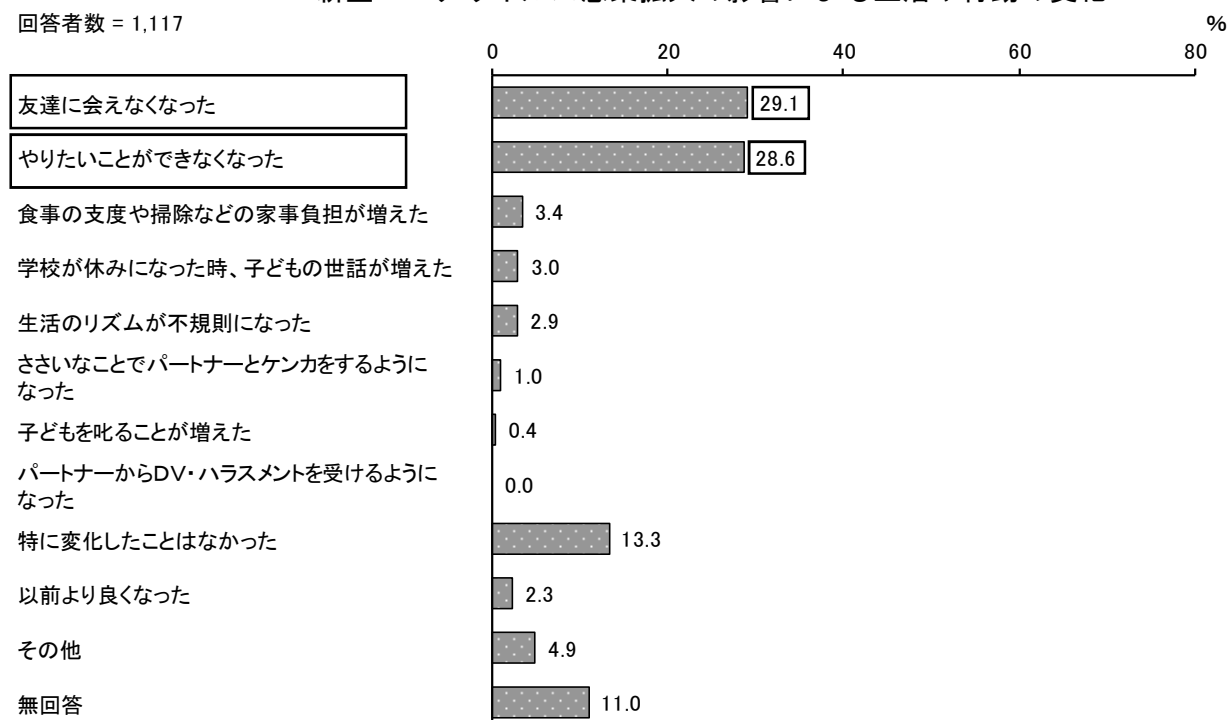
回答者数 = 1,117



新型コロナウイルス感染拡大の影響による生活や行動の変化については、「友達に会えなくなった」、「やりたいことができなくなった」と答えた方が、それぞれ約3割となっています。

9-2 新型コロナウイルス感染拡大の影響による生活や行動の変化

回答者数 = 1,117

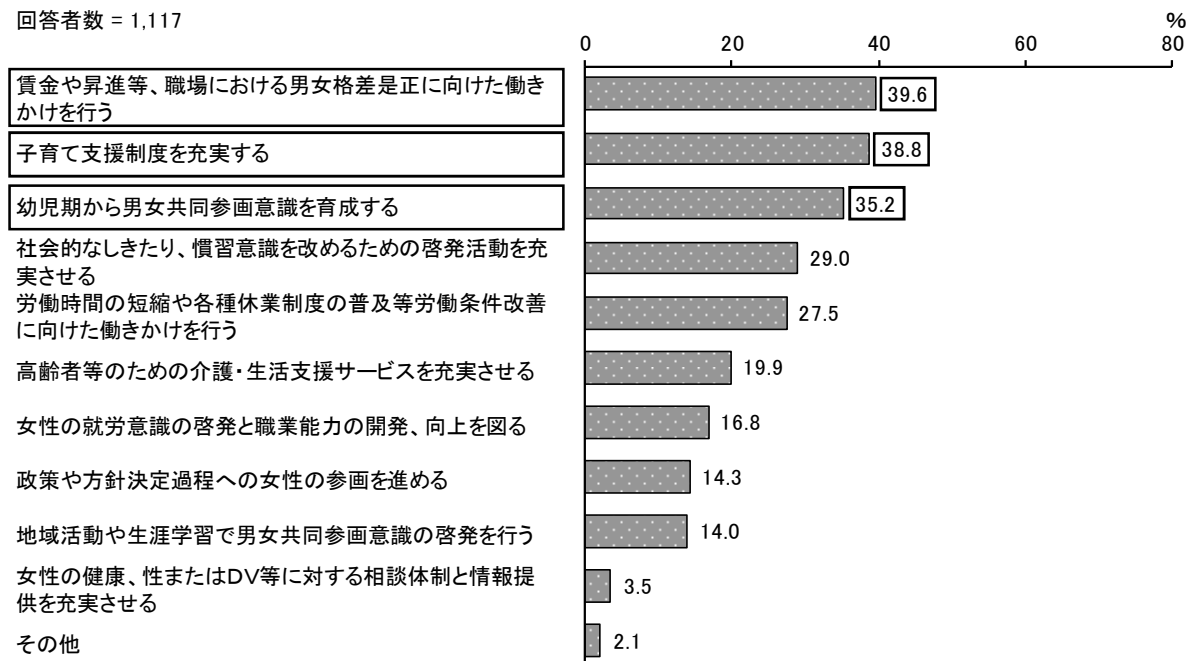


10 男女共同参画社会に関する施策について

性別に関わりなく活躍できる社会の実現に必要な取組については、「賃金や昇進等、職場における男女格差是正に向けた働きかけを行う」の割合が 39.6%、「子育て支援制度を充実する」の割合が 38.8%、「幼児期から男女共同参画意識を育成する」の割合が 35.2%などとなっています。

10 性別に関わりなく活躍できる社会の実現に必要な取組

回答者数 = 1,117



厚木市男女共同参画市民意識調査報告書

《概要版》

発行日 令和4年3月

発行 厚木市 協働安全部 市民協働推進課

〒243-8511 神奈川県厚木市中町3丁目17番17号

電話：046-225-2215